

令和3年2月3日

患者様、ご家族、地域の皆様方並びに連携医療／看護・介護機関様各位へ

医療法人裕徳会
港南台病院
院長 神谷 周良

平素は格別なご厚情を賜り誠にありがとうございます。

この度は当院病棟内にて新型コロナウイルス感染症に罹患した患者様、職員が発生し、皆様方に多大なご迷惑、ご心配をおかけした事を心よりお詫び申し上げます。

当院の特性として地域のかかりつけの患者様の検査、外来、訪問診療、入院加療などの他に、大きな急性期病院からの患者様の転院を積極的に受け入れ間接的に横浜の救急医療を円滑に稼働させる使命があります。

今回、最初に新型コロナウイルス感染症のPCR検査が陽性となった患者様もそういった当院へ転院した患者様でした。もちろん入院時にPCR検査を施行しておりますが、皆様方もご承知の通り、ある一定の確率で偽陰性となり、さらに無症状の方もいることから潜在的な感染リスクを確実に0にする事は非常に困難です。

今回のケースは転院前の同室患者様にPCR検査陽性が判明した連絡を翌日に受け、再度PCR検査を施行した所、陽性が判明、同日同病院へ再度転院となりました。同時に迅速かつ積極的に入院患者様、全職員のPCR検査をした所数名陽性者がいる事が判明、クラスター認定となりました。

完全な隔離、動線の確保、新型コロナウイルス感染症対策チームの結成、連携医療機関感染管理専門スタッフ、保健所とも連絡を取り合いながら、現在は全職員の賢明な頑張りで見極めながら最短の時間で収束に向かっております。幸い保健所からの指導に関しては大きなご指摘はありませんでした。

実感として感染力は凄まじく、短時間で急速に広がった経緯を考慮すると、一人目の陽性者はいわゆるスーパースプレッダーであったものと推測されます。

一時的に新規の入院受け入れをストップしておりますが、状態を見極めながら徐々に再開する予定です。

一方、外来診療、訪問診療にかかわる全てのスタッフはPCR陰性を確認しており、病棟とは一切関わる事が無い為、患者様に感染させるリスクは通常の生活で感染するリスクと同等と判断し継続する方針です。

電話再診での投薬も、これまで通りいつでも受け付けておりますので安心してご連絡ください。

当院に対しての風評被害がある事は承知で述べさせていただきます。

神奈川県の新型コロナウイルス感染症患者様の新規発生数は減少傾向にありますが、著減はしていない状態です。そして必ず、遅れて病床使用率はひっ迫します。連日の報道でご存じの通り、癌患者様への手術、緊急疾患の救急搬送受入れなど、通常の医療まで影響が及んでいる状態です。医療崩壊の定義は難しいですが、どんなに甘く見積もっても、現在の状況はそれに近いものだと思います。

当院におきましても、かかりつけの患者様の入院医療の提供が困難な状態が続き、非常に心苦しいですが受け入れを断らざるを得ない状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症陽性であっても重篤感があり、ぎりぎりの状態でないと入院は困難で、ご自宅あるいは高齢者施設、救急車内で亡くなられる事態も発生しています。

ご自宅で重症化するのではないかと、死んでしまうのではないかと、家族にうつしてしまったら？などと強い不安の中、必死にこらえながら、頑張っている姿を想像するとやりきれない思いになります。

そういった状況の中、国から民間病院への新型コロナウイルス感染症専門病床新設／移行に対する強い要請が連日の様になるようになりました。

第3波が収束に向かっておりますが、今後緊急事態宣言が終了しても、変異ウイルスの感染拡大など必ず第4波はやってくると思います。

現在緊急事態宣言中ではありますが、人の流れは思うように止まらず、経済を回しつつ収束を図る事は困難を極めます。今の日本の経済状況を考えれば諸外国の様に国民との強い信頼関係による協力的ロックダウン、あるいは強権的な完全なロックダウンを出来ない事は仕方のない事なのかもしれません。

共働き、あるいは様々な理由で親御さん一人で働きながらお子さんを学校に通わせている方もいるでしょう。本来であれば現場の一医療者としては休校も要請したい所ではありますが、致し方ない事情がある事も承知しています。

開発された新型コロナウイルスワクチンが余程の効果がないと、残念ながらこのウイルスとの戦いにしばらく終わりは来ないでしょう。

こういった状況の中で熟考に熟考を重ねた結果、地域医療を担う当院としても、新型コロナウイルス感染症専用病床を稼働させる事といたしました。

これはある意味、当院に課せられた使命であり、患者様、職員、自分自身、そしてそのご家族を守るためのものです。

新型コロナウイルス感染症からいつまでも逃げてはいけない、逃げられない状況の中、当院の外来／訪問患者様が陽性となった場合に、他院にも受け入れベッドの空きがなくなつただけで、ただその場で悪化していく状態を、知らぬふりはできません。

なんとか1床でも多く専門病床を確保し、患者様の支えとならないといけません。

当然これは当院としても痛みを伴う選択です。

病院に対してあるいは職員に対しての風評被害も出るでしょうし、外来患者様が減るかもしれません。

訪問診療患者様からはお叱りを受けることもあるかもしれませんが、入院ベッドも通常の状態に戻せないかもしれません。

十分な補償をつけても職員がついてこないかもしれません。

そういう事のリスクも覚悟での決断です。

今は日々、究極の選択と苦渋の決断の連続です。

先日、職員よりこういう話がございました。

当人がPCR検査を受けた場合には結果の如何にかかわらず、例え陰性であったとしても通学しているお子さんの学校への報告義務と登校休止だそうです…。大変胸が痛み、言葉を失いました。これが現実です。

人手不足の中で、N95マスク、防護服などの器材も不足し、感染の恐怖に耐え、隔離した病室の外に出歩いてしまう感染した認知症の患者様に付き添い、食事介助をし、喀痰吸引をしながら、認知症の患者様が酸素マスクを外さない様に一晩中チェックし、外してしまつたらその度に付け替え、おむつを変え、10分毎にナースコールを押す患者様の対応をし、不運ながらも新型コロナウイルス感染症に感染し入院している当院職員に「大丈夫だよ」と明るく声をかけ、自宅待機あるいはホテル暮らしを余儀なくされている職員に毎日状態確認の電話をし、同居家族への感染リスクで心配で夜も眠れず、結果陰性ならば安堵の涙を流し、受験を控えたお子さんに申し訳なく思い、連続夜勤をこなし、休みもなく、感染し倒れていく仲間の姿をやり切れない思いで見つめ、気持ちを奮い立たせ、懸命に患者様を看ている職員。

皆様是非、暖かく応援してあげてください。風評は差別の始まりです、全職員の戦う志気を下げてしまいます。新型コロナウイルス感染症が収まるまで全職員、一丸となって頑張つてまいります。

どうか皆様方、ご理解の程何卒よろしく申し上げます。